

(仮称) つくばみらい市義務教育施設適正配置再検討計画 (案)
(既に複式学級が発生している学校に関する計画案)

説 明 会



2019年1月26日
つくばみらい市

序. はじめに

2016年3月

「つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画」の策定

中学校の適正配置の明確な方針がない

市民の十分な理解が得られず計画どおりの統合は困難

2018年10月

「つくばみらい市義務教育施設適正配置審議会

及びつくばみらい市学区審議会」の立ち上げ

第1次答申 (複式学級の早期解消)

2019年3月

「既に複式学級が発生している学校に関する計画」の策定

2020年3月

全体計画の策定 (予定)

1. 本市における教育環境の課題

— 事象・要因 —

— 主な課題 —

(みらい平地区の)
人口増

(既存地区の)
人口減

1 複式学級の発生・教室不足

2 教育環境の不均衡や教員配置の偏り

3 幼児教育環境の偏り

4 新たな時代に対応した教育

5 子育てに関するニーズの多様化

3

2. 本市における望ましい教育環境の創出に向けて

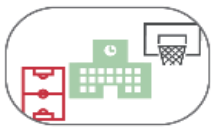
考え方に優先順位をつけて、教育環境などの課題を解決していく必要があります。

【望ましい教育環境の創出に向けた考え方の優先順位】



優先順位 1 教育内容

協働的な学習，グループ学習などが適切に行えるか。



優先順位 2 教育環境

教室数，特別教室，教員配置（指導体制）などは適切か。



優先順位 3 学級規模・学校規模

一学年の学級数，一クラスの人数などは適切か。



優先順位 4 通学環境

通学距離，通学時の道路環境などの安全性は適切か。

4

3. 早期に望ましい教育環境を創っていくために

(1) 複式学級の教育上の課題

- 授業で多様な発言が引き出しにくく、授業の展開に制約。
- 男女の偏り。 ○人間関係の固定化（クラス替えが不可能なため）。
- 教育活動の幅が狭い。 ○習熟度別指導など多様な指導方法の制限。 など

これらの教育上の課題は複式学級では顕著に現れます。

(2) 複式学級解消によって改善されること

① 教育活動における改善点

- ・同学年同士の学習機会の増加、内容の充実。
- ・多種多様な教育の展開。
- ・男女比のバランス、人間関係の築きやすさ。
- ・経験年数や専門性などバランスの取れた教員配置。 など

② P T A 活動や保護者・地域との連携における改善点

- ・保護者への負担軽減（PTA活動）
- ・保護者，地域同士の新たな交流。
- ・広範囲なイベントの実施。 など

5

4. 既に複式学級が発生している学校に関する 適正配置に向けた考え方

(1) 複式学級解消の対象校

三島小学校：5クラス※

東小学校：4クラス※

※ 2018年（平成30年）5月現在の学級数

複式学級解消の時期

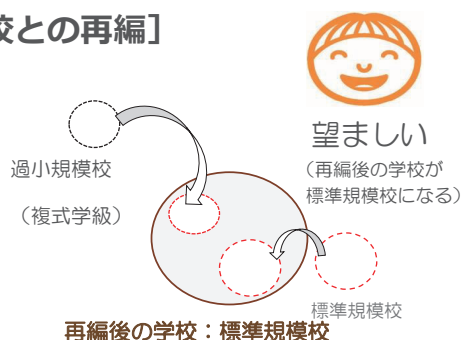
2020年4月

統 合

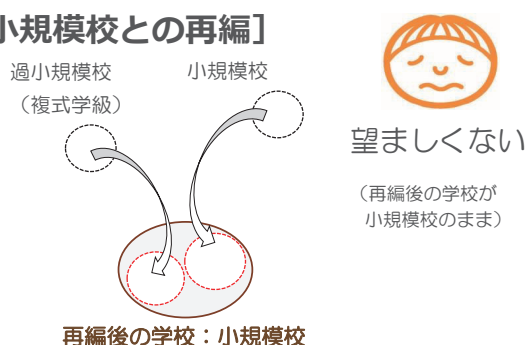
(2) 複式学級解消の考え方

① 複式学級解消後の学校規模

[標準規模校との再編]



[小規模校との再編]



6

(3) 複式学級解消の進め方 (原則)

■ 複式学級解消の進め方

学校規模分類	学級数	学校数	小学校 (計12校)	
過小規模校	複式学級	2校	三島小学校 (5)	東小学校 (4)
	6学級以下	5校	小張小学校 (6) 谷原小学校 (6) 福岡小学校 (6)	豊小学校 (6) 十和小学校 (6)
小規模校	7~11学級	該当なし	-	
標準規模校	12~24学級 (※1)	5校	谷井田小学校 (12)	板橋小学校 (12)
			小絹小学校 (18) 陽光台小学校 (24) 富士見ヶ丘小学校 (19)	
大規模校	25~30学級	該当なし	-	
過大規模校	31学級以上	該当なし		

複式学級の
早期解消

標準規模校と
一緒になる

三島小学校は谷井田小学校と、東小学校は板橋小学校と一緒にあります。

※1 標準規模校について：新設校の場合、18学級までが標準規模校となります。
 ※2 ()内の数について：2018年(平成30年)5月1日現在の学級数(特別支援学級を除く)を表します。
 ※3 過小規模校~過大規模校の分類：『教育と施設』11号, 1985.11, p.62文部科学省 より引用

○ 統合準備委員会

統合する学校の組合せごとに統合準備委員会を設置する。

1. 学校運営 (学校名, 学校運営組織, 学級編制など)
2. 教育課程 (教育課程編成, 年間指導計画など)
3. 学校生活 (生活の決まり, 通学方法, 服装の決まりなど)
4. PTA (PTA組織, 事業計画など)
5. 歴史・伝統 (歴史, 伝統保存方法など)

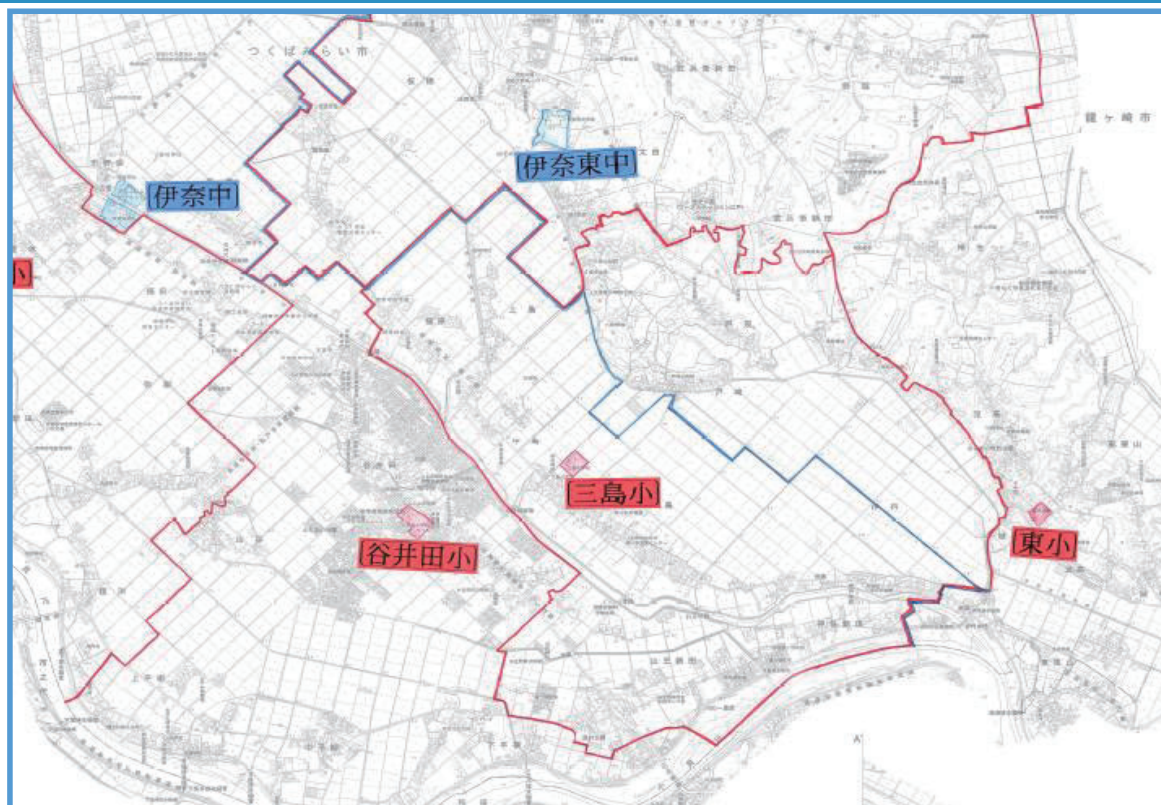
○ 複式学級の解消による課題

三島小学校の学区については、学校関係者同士の話し合いを踏まえる。

■ 三島小学校の伊奈中学校・伊奈東中学校別の将来児童数推計

		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
三島 小学校	全体	58人	55人	59人	57人	56人	50人	49人	51人	49人	53人	51人	54人	54人
	うち伊奈中 通学予定児童数	56人	53人	57人	53人	53人	47人	45人	47人	44人	49人	46人	48人	48人
	うち伊奈東中 通学予定児童数	2人	2人	2人	4人	3人	3人	4人	4人	5人	4人	5人	6人	6人

三島小学校の中学校区



9

5. 複式学級解消を進める上での配慮事項

(1) 通学環境の変化に伴う遠距離通学に関する配慮

① スクールバスによる通学支援

通学支援^(※)に関する距離基準（小学校：3km）を前提に、スクールバスによる通学支援に取り組む。

※つくばみらい市遠距離通学費補助金交付要綱

② 通学路の安全対策

新たな通学路を設定し、危険箇所の解消に取り組む。

(2) 学習環境の変化に関する配慮

① 事前交流事業の実施

仲良く、切磋琢磨しながら学習や学校行事等を行えるよう、新しい学校に通う前から交流の機会を設ける。
PTA等の交流事業による保護者同士の連携を図る。

② 学校生活における不安への対応（心のケア）

統合前からの授業進度調整（複式学級と通常学級とのカリキュラム調整）など、統合前後の児童の心理的負担の解消を図る。

10

(3) 新たな学校における取り組みに関する配慮

①学校と地域の関係の構築・強化

- ・学校は地域コミュニティの中心的要素。
- ・学校と地域との関係の構築・強化に努めます。

②学校が取り組んできた特色ある教育活動の継承

- ・これまで取り組んできた教育プログラムの継承。
- ・子どもたちが地域への愛着や誇れる郷土教育の充実を図る。

③既存施設の充実

- ・老朽化した設備等の改修など、必要に応じた施設整備。

(4) 跡地利用に関する配慮

- ・地域で果たしてきた歴史的役割や地域事情にも配慮
- ・地域の意見や要望を聞きながら、各種計画と整合性を図り、有効活用。

質疑・意見交換

※メモ欄としてご利用ください。

本日は、ご来場いただきまして、ありがとうございました。適正配置に関してご不明な点などがございましたら、左記までお問い合わせください。

つくばみらい市教育委員会
 学校教育課 適正配置推進室
 〒300-2395 つくばみらい市福田195番地
 TEL 0297-58-2111 (内線 7108・7109)

